

新ひだか町立学校の調査結果

はじめに

令和3年5月27日に、本年度の「全国学力・学習状況調査」が実施され、結果が公表されました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となったため、2年ぶりの実施となりました。小学校6年生では国語と算数、中学校3年生では国語と数学が実施されました。

また、例年どおり生活習慣などに関する質問紙調査も行われました。

以下、当町の結果について概要をお知らせします。

国語では「書くこと」算数・数学では「計算と図形」に課題

小学校ではすべての領

質問紙調査からは、小・中学校ともに朝食摂取率や家庭学習時間などにおいて、全国・全道平均を下回るとい課題が続いています。一方で、小学校では「人が困っているときに進んで助ける」と

質問紙調査から

回答した割合が、中学校では「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている」と回答した割合が全国・全道を上回りました。また、小・中学校ともに、「友達と協力するのは楽しい」と回答した割合が全国・全道を上回りました。

域において全国・全道の平均正答率を下回っています。特に、国語の「書くこと」、「読むこと」、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」、算数の「数と計算」、「図形」の分野に課題がみられます。中学校でも「書くこと」、「数と式」、「図形」の正答率が他の領域に比べて低いことから、教育委員会では町としての課題と捉えています。

一方、中学校では国語の「話すこと・聞くこと」、数学の「資料の活用」の領域が全国・全道平均に近い結果となっています。弱点に焦点を当てた指導の工夫・改善、新ひだか町「学びのスタンダード」を基にした、生徒同士の学び合いによる問題解決型の学習が成果として現れてきています。

新ひだか町の学力向上策

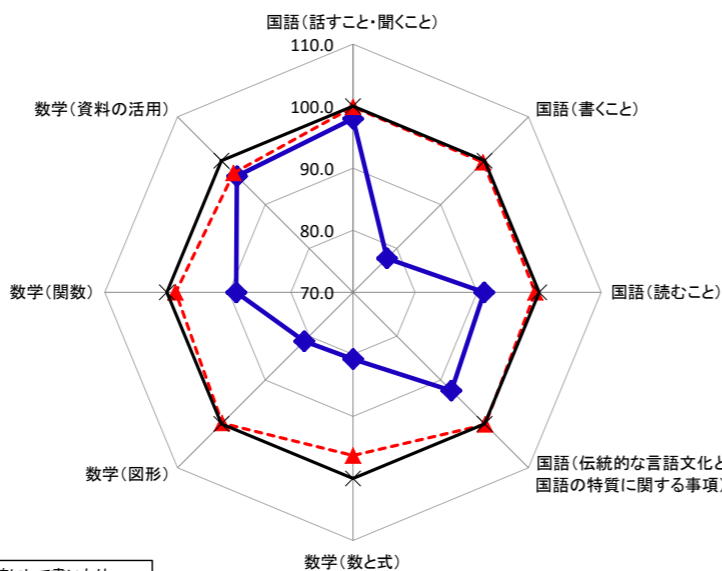
- ◎全国学力・学習状況調査および標準学力検査の結果分析に基づいた指導の改善・工夫と家庭での生活リズムの改善。
- ◎中学校区を単位とした学力向上プランの作成と、小中が連携した学力向上策の推進。
- ◎新ひだか町「学びのスタンダード」を基にして問題解決的な学習過程を引き続き位置付けるとともに、ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図る。
- ◎放課後学習サポートおよび長期休業中の公設学習塾、家庭学習強化週間の実施などによる学習支援体制のさらなる充実。



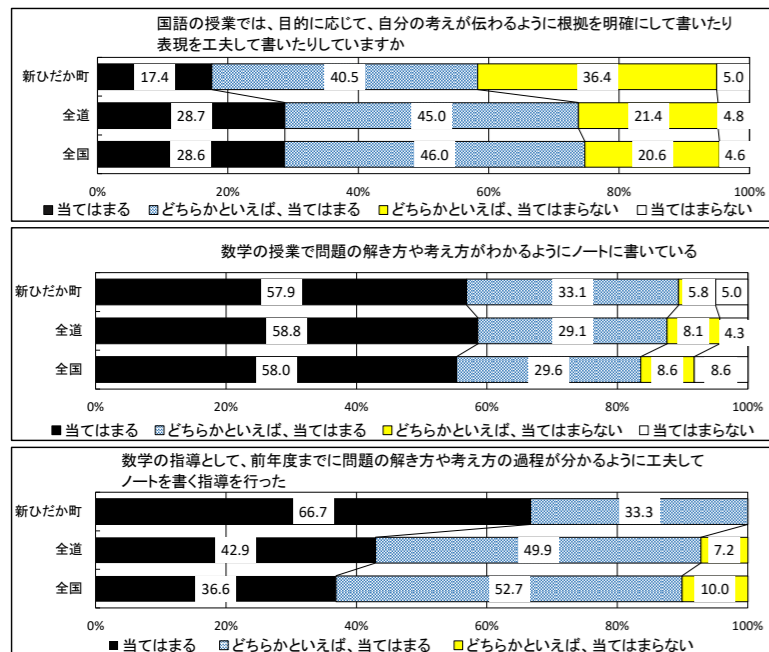
新ひだか町内 中学校 の状況 (学校数：3校、第3学年生徒数：121人)

【教科全体の状況】

■各教科の領域別に全国を100とした場合の全道および新ひだか町の状況



【質問紙の状況】



【分析】

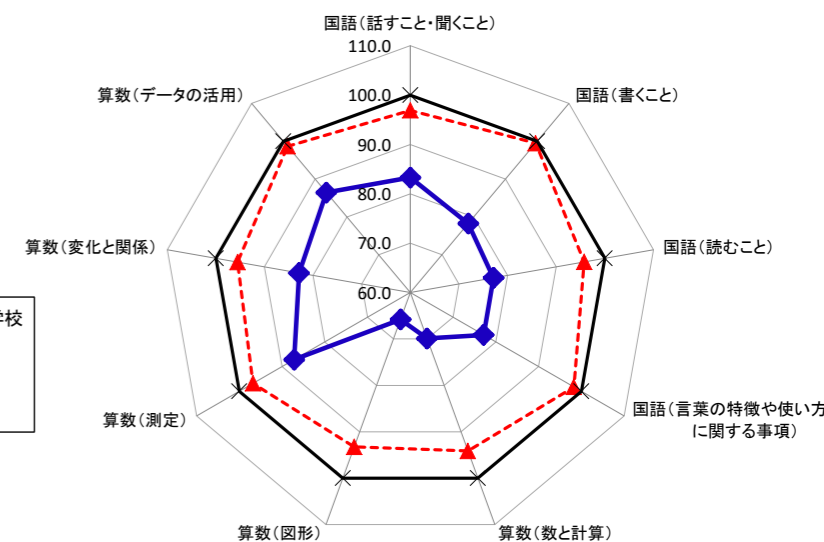
**教科** 国語では、「読むこと」に加えて「書くこと」の基礎学力にも課題がある。読解力・表現力育成を目指す取り組みを授業過程に位置付け、他教科や学校教育活動全般においても推進しているが、定着までに時間を要している。

**質問紙** 数学の指導として、前年度までに、課題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、生徒の考えを重視した授業が展開され、数学の授業で「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した生徒の割合が、全国および全道を上回ったと考えられる。

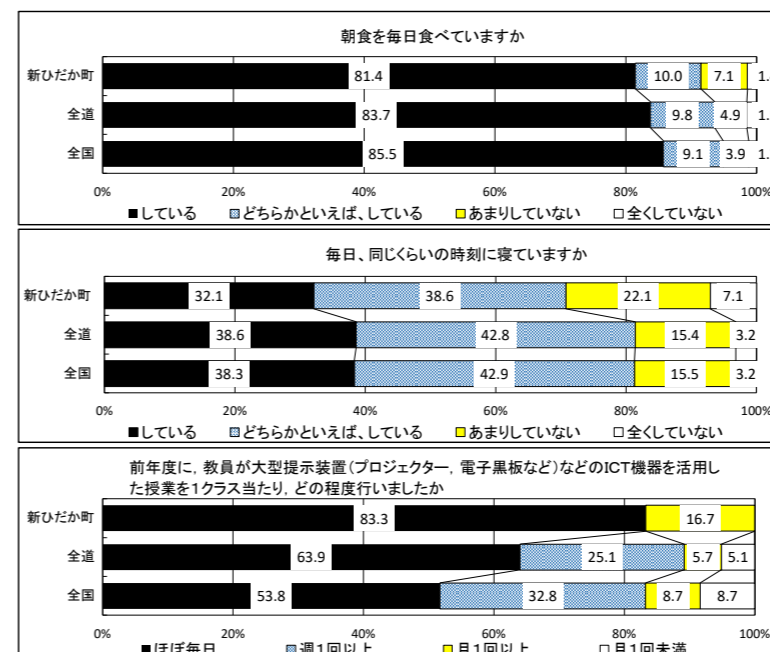
新ひだか町内 小学校 の状況 (学校数：6校、第6学年児童数：140人)

【教科全体の状況】

■各教科の領域別に全国を100とした場合の全道および新ひだか町の状況



【質問紙の状況】



【分析】

**教科** 基礎的学力の定着に課題がある。朝食の摂取率が低く、起床・就寝時刻が不規則であるなど、家庭における生活習慣の確立が不十分であることから、家庭学習時間が確保されていないと考えられる。

**質問紙** ICT機器を活用した授業改善を行ったことにより、教職員のICT機器を活用する意識が高まり、「ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行った」と回答した学校の割合は、全国および全道を上回った。